

北海道農業と消費者を「繋ぐ輪」。

# つなぐわ

TSUNAGUWA

vol. 5

2024年5月30日 第5号

発行〇株式会社 HAL GREEN

特集 HAL+総会で「繋ぐ輪」

特別企画

## HAL+海外視察 ニュージーランド・タスマニア レポート

(表紙:ニュージーランド玉葱圃場・駒谷氏撮影)

# HAL+総会・HAL GREEN 全道研修会

- 開催概要**
- 日時 2024年1月24日(水) 13時～19時
  - 場所 ホテルニューオータニイン札幌 2階鶴の間
  - HAL+総会 ● HAL GREEN 事業報告・方針説明 ● 講演会・交流会

「2023年度HAL+総会・全道研修会」は53名の生産者、21社の協力企業にご参加いただき開催となりました。HAL+総会は①2023年度活動報告、②2024年度活動計画、③規約の改正、④役員の改選について、議案を諮り決議されました。概要については次のとおりです。



- ① 2023年度活動報告・国外・国内視察研修の報告についてはP05以降に記載します。
- ② 2023年度活動計画：新年度も国外・国内視察研修を計画するとともに、コロナ禍でなかなか実施出来ていなかつた産地間の交流や出荷自合わせなど、随時会員の皆様のニーズを伺い、状況に応じて柔軟に対応することとなりました。
- ③ 規約の改正：現行規約では会長1名、副会長若干名としているが、改正案として役員に理事を追加する案が承認されました。
- ④ 役員の改選・任期満了に伴い、役員の改選が行われました。新役員の方々の詳細はP04をご参照ください。

## HAL GREEN 事業報告・方針説明

### 営業部

東谷 徳子（新規商材）

- ① 2023年度生食用でブロッコリーととうもろこしの出荷をいたしました。当初から鮮度保持と店内陳列をした際の変色や劣化等課題がありました。ブロッコリーに関しては定温輸送のため品質はどこよりも良かつたとの評価をいただきました。とうもろこしについては保冷工アカーポにドライアイスを積載し冷気を回しての輸送のため、完璧とまではいきませんでしたが取組初年度としてはまずまずだったと思います。エアカーポで最短納期納品するのが良いのか、日数はかかるが一定温度での輸送が良いのかが2024年度の課題です。

- ② イオン琉球では昨年の北海道フェアで産地表記を北海道長沼町産・北海道芽室町産と店内POPに記載され、2024年度は生産者名も全面に出したいという「生産者の顔が見える」シリーズを要望されております。通常納品分での生産者限定期には生産者指定出来るよう社内調整し納品していく予定です。

### 産地開発部

原一未（馬鈴薯・大豆）

- ① 南瓜：食味・食感の評価が高い”恋するマロン・ほろほろ”のラインナップ継続し品種を推した形での取組を進めます。種苗会社との連携強化し栽培面でも皆様をサポートさせていただきながら品質面や収量性といった部分でも向上も目指します。

### 産地開発部

八木橋謙（南瓜他）

- ① 玉葱 各販売先のPB（プライベートブランド）対応商品：既存および比較的新規の販売先とともに「特別栽培、GAP認証、有機認証」などを希望されている先が多くを占めています。
- ② 玉葱 加工用原料としての供給依頼：レトルト・冷食関係の大手2社から同様の相談があり、産地との取組化を摸索する良いきっかけにしたいと思っています。課題は多いですが、2025年本格導入に向けた枠組みの構築をしたいと思います。
- ③ 玉葱 選果作業の請負：近年、依頼が増加し傾向で、作業員の安定雇用および設備の有効稼働率向上による増収益化を念頭に進めていきたいと思います。生食ごぼうについて、青森県産の動向に左右されない取組化構築が必須と考え、現行の販売想定先を軸に粘り強く継続することに注力したいと思っています。

### 産地開発部

中村祐介（玉葱他）

- ① 馬鈴薯：取扱量90%のシェアを占める上位4社から大きめのサイズ（3L～L）、GAP認証、特別栽培の商品を求められています。引き続きGAP、特別栽培に取り組みます。引き続きGAP、特別栽培による外食系需要の落ち込みの影響を受け、販売量も低迷しました。規制緩和されて以降の販売は順調な動きとなっています。2023年産の品質低下により、特にとよまさり系の引き合いが高まるところ見込まれます。



大分大山町農業協同組合  
代表理事組合長  
矢羽田 正豪 氏

種をまき夢を追う～町が農業を通じて活性化する仕組みづくり～

道の駅の運営や、“軽薄短”的小作物・多品目販売を早くから始め6次化の最先端をいく農業を実践され、キャッチフレーズのある農業を推進する活動をご講演いただきました。



税理士法人 小島会計  
代表税理士  
小島 拓也 氏

農業に係る補助金制度、事業承継について

ものづくり補助金を中心とした農業に係る補助金制度の紹介や、いずれ訪れる事業承継に向けて主に税制面からのアドバイスをご講演いただきました。



北海道銀行コンサルティング営業部  
アグリビジネス推進室 顧問  
木村 秀雄 氏

TKCデータによる「黒字経営と赤字経営の違いは何か？」

TKCデータを活用し、同じ業種・業界で自社の立ち位置を分析する手法などをご講演いただきました。

### 講演会

私たちが行っている農業は、国民の財産である大地を耕し、太陽の恵みを存分に受けながら自然環境の中で、時に厳しくも知恵を絞り立ち向かい、ただ単に国民の生命の源である食糧を生産するだけではなく、人を育て地域コミュニティの活性化に取り組み社会貢献に努めていますが、農業家である私達の使命だと思います。「土を育て、作物と向き合う」農業の基本をしっかりと実行し、歴史や伝統を守りながらも、今の時代にあつた道を切り拓くことで農業経営をより発展させていけるものと思います。

最近特に感じ思っていることに、生産者と消費者の距離が遠いと言う事があります。もっと身近な農家にならなければいけないし、消費者にも、もともと農業を身近に感じてもらいたい、現場にも来てもらいたいと思っています。そうする事によって

た。また、不採算先との取引解消、宅急便からJRCコンテナへの切り替え、障がい者施設への作業委託等の業務効率化により経費削減を図りました。

③ 史上最高の精算単価を実現できた最大の要因は商品自体の魅力に尽きます。様々な特徴的な取り組みを行っておられる各生産者様の特徴を分かり易く丁寧に伝える事を通じて、今後も栽培に取り組んでいただきやすい環境を整えていきたいと考えております。

④ 加工牛蒡：23年産は、価格面では苦慮しましたが品質面の評価が高く、荷動き鈍い中でも3月中に全て出荷完了となりました。品質面をよりアピール材料とし取組としての流れを構築できるよう努めます。

② サツマイモ・ハリガネムシ対策を24年産分よりルール化と致します。北海道産苗の拡大による品質及び収量性向上や苗単価削減、販売面では一部でも北海道にて選別・出荷という流れで出荷する動きを進め、より魅力的な品目へのステップアップを目指します。

③ 加工人参…栽培面、サイズ感や加工適正の観点で新たな品種の模索、近年の環境変化に伴う栽培方法の情報収集等を積極的に実施致します。

④ 加工牛蒡…23年産は、価格面では苦慮しましたが品質面の評価が高く、荷動き鈍い中でも3月中に全て出荷完了となりました。品質面をよりアピール材料とし取組としての流れを構築できるよう努めます。



HAL+新会長  
駒谷信浩  
(こまたに のぶひろ)

## 新任挨拶

# 新会長挨拶

① 小麦：2023年は北海道でもまれに見る高温に見舞われ、作況への影響も多く見受けられました。そこで小麦は比較的に収穫時期が早く、登熟期間が短くなり一部地域では収穫が7月10日前に開始されるなど心配もありましたが、弊社取扱い小麦は収穫してみると過去最高レベルの収量・品質(歩留まり)でした。販売面に関してはコストコでの新商品(ホーテルブレッド)販売開始など、コロナ禍を越えようやく明るい兆しが見えてきました。

② 玄そば：収穫時期が8月末～10月と比較的遅い為、高温によるそもそもダメージが大きかったこと、受粉期における高温で蜂が飛ばない事態に陥るなど、

① すいか・メロンは全国的に毎年作付面積が減少していることに加え、猛暑の影響もあり、出荷数量はすいか・メロンとも前年を下回りましたが、値上げと業務効率化の効果により、精算単価はすいか・メロンともに史上最高となりました。

② 栽培に関する各項目毎の経費の割合を生産者の皆様に詳しく教えていただきた事により、バイヤーに対しても値上げの具体的な根拠を示す事が可能となり、値上げを受け入れていただく事ができました。

## 営業部

### 尾崎 昌弘(すいか・メロン)

① 分かち合える価値観が出来上がるのだと思います。生産者は農産物を買ってくれた人に感謝し、そして買ってくれた人も生産者に感謝するのです。心のつながりを持つことにより、互いに心豊かな生活を送れるのだと思います。

② 知人との会話で私の思いが重なる言葉がありましたので紹介して終わりたいと思います。

「今の社会お金が当然大事ではあります。がその先にある、お金と交換するモノにこそ価値があり、そのモノの裏には人々の働きがある事実をしっかりと認識する事が大切なのです。我々はお金とモノの交換を繰り返し経験する中で、物の裏に存在する人々の働きを忘れてしまっているのではないかでしょうか。自分にできないことを他の人にやつてもらった結果として、そこにモノが存在しているのであって、支払いはモノに対してというより人々の働きに対しても感謝を伴いなされるべきなのです」

このような思いを、その架け橋をHAL GREENが担う事で、より多くのつながりが増えるのだと思います。

今後もHAL GREENとある意味緊張感のある関係で、より良いHAL+にじいていく、よろしくお願ひいたします。

## 営業部

### 中田 考一(小麦・そば)

全道的に見ても不作に近い作況でした。販売面に関しては需要と供給のバランスをとるのに苦慮した年となり(＝玄そばが足りない)、来期に向け産地拡大を推進してまいります。

## 商品管理室

### 本西 誠亮(G・GAP)

① 2024年シーズンよりGLOBAL GAPの規格が5・2版から6版にバージョンアップされることになり、正式日本語訳版が発表される前でしたが、ドラフト版から推定された変更点や注意点について周知を行いました。

今回の改変では規格の構造が大きく変わり、これまで管理点(原則)の属性から3つの区分に分けられていたものが一つにまとめられ、一つの管理点で複数の管理基準を含む形になりました。これにより5・2版で222項目あった管理点が190項目に圧縮されシンプルな形となっています。

② 管理点の内容については、環境に対する負荷や働く人の権利などについてより改善についても新たに管理項目に意識した内容が追加されており、また、GAPの基本的な考え方である継続的な改善についても新たに管理項目に加えられました。この他、使用する水の水質検査のサンプリングや検査頻度についての変更もありました。

## 新役員一覧

### ◆ 会長

駒谷 信浩(長沼)

### ◆ 副会長

五十嵐 猛(新篠津)

### ◆ 理事

松久 茂史(芽室)

蓑島 修一(由仁)

原田 幸司(俱知安)

岡本 耕一(富良野)

### ◆ 顧問

東條 真澄(俱知安)

# 海外視察レポート（レポート作成・HAL GREEN 中島英利）

## 1 日時・行程

2024年1月9日～1月16日

① ニュージーランド

（北島・オークランド周辺）

② タスマニア

（北部・ダベンポート周辺）

## 2 参加メンバー

- 東條 真澄氏 (HAL+会長・現顧問)
- 駒谷 信浩氏 (HAL+副会長・現会長)
- 鈴鹿 誠氏 ● 鈴鹿 瑞穂氏 ● 鈴鹿 悟氏
- 走出 邦章氏 ● 納口 秀則氏
- 木村 哲哉氏 ● 木村 さおり氏
- 山田 俊作氏 (企画・現地案内)
- 岩井 純氏※ (双日マシナリー・現地案内)
- 中島 英利 (HAL GREEN)

## 行程 農業商社による地元農家との研修視察(6日間)

DATE	TOUR CONTENTS
9-Jan	空路、オークランドへ
10-Jan	オークランド市内観光、デボンポート、スカイタワー展望台、ローカルマーケット見学
11-Jan	郊外農業視察、Balle Bros. Export Ltd (North Islandエリア) 1919年より営農し現在4代目。7か所のうちを所有する大規模農家 馬鈴薯、玉葱、ネギ、キャベツ、人参、カリフラワーなど選果施設も有し、海外にも輸出。
12-Jan	郊外農業視察&選別機、洗浄機視察、WillCox (PUKEKOHEエリア) 1,000haの大規模農業法人（従業員200人）でGGAP取得。 玉葱340ha、馬鈴薯500ha、人参120ha、他スイカやブロッコリー
13-Jan	市内外観光&自由行動
14-Jan	空港へ移動
15-Jan	タスマニアへ直行便で移動
16-Jan	(市内農場視察)ハーベストムーン空路、成田空港へ

※双日マシナリー 岩井氏は現地アテンド担当



① WillCox前にて  
② WillCox圃場にて

## 3 訪問国地域概要

① ニュージーランド（以下NZ）：日本の土の北海道を除いたほどの面積なるも農地面積は日本の2・3倍、北海道の9倍ほど。主要作物はキウイフルーツや馬鈴薯・玉葱・南瓜などの野菜のほか畜産・酪農（羊・牛）が盛んである。

② タスマニア（以下TS）：北海道の1回り小さくした程度の国土なるも農地面積は日本の2／3、北海道の2・7倍ほど。主要作物は馬鈴薯・玉葱・人参が中心で畜産・酪農も盛んである。羊も多く飼育されている。

※図1参照

## 5 訪問先

① Balle Bros. Exports Ltd  
(所在地：Pukekohe)

	日本	北海道	ニュージーランド	タスマニア
位置	東京 (E136.45,N35.41)	札幌 (E141.2,N43.05)	OKL (E174.80,S36.51)	DVP (E145.97,N41.45)
面積(km <sup>2</sup> )	378,000	83,424	268,000	68,400
人口(万人)	120,000	510	512	54
農地面積(万ha)	440	114	1,035	314
GDP(兆円/米億ドル)	556/370,660	19.7/13,133	2,499	207
農業生産額(兆円/米億ドル)	4.9/328	1.3/84	720	68
主要農産物	野菜・米・果実・肉牛・生乳	野菜・米・いも・豆・麦	果実(キウイ等)・野菜	ジャガイモ・玉葱・人参等
玉葱(万t)	130	80	24	16
馬鈴薯(万t)	240	190	53	28

## 4 農業形態

これは、NZ、TSいずれもそうであるが、当地では農協に当たる組織が存在しない。例外としてキウイフルーツはNZでここ20～30年の比較的新しい特産品であることから、出荷組合は存在するものの、自ら販路を開拓するケースが多い。もちろん、農業生産専業でやっているケースもあるが、生産→収穫→選果・加工→販売→輸出まで一気通貫でやっている会社が主体であり、我々が面談したのもそのような企業体である。

NZの従業員は200人程度で時給25\$のワーキンググループホリデーでも来ているが、地元民他トンガ、インドからの移民も多い。

## ● 生産・販売

5～7月に直播し、11月から収穫販売する。反収50～60t/haで除草剤は雑草対策として使用。輪作は5年周期で玉芋は2年毎に変えている。GAP取得済み。

### 〈輪作体系〉

2年玉葱(340ha)→2年馬鈴薯(500ha)→1年穀物

### 〈リレー栽培リレー出荷〉

ニュージーランドは南北に長く南緯36°46度で緯度10度の差異がある。南北で逆になるものの、日本でいうと北緯36埼玉県、長野県→46北海道稚内市にある。※図2参照

この地形や温暖な気温を利用して、リレー栽培リレー出荷を行っており、およ



そ180～240日の生育期間を経て、11月～4月で収穫し、販売期間も11月～6月と8カ月くらいとなっている。

保管状況によってはほぼ通年出荷が可能で主要輸出先はイングランド、ドイツ、香港、シンガポール、インドネシア向けに木コンテナ(1,300kg)で輸出。輸出時期は主に12～3月で、日本への主要販売先は阪南青果(大阪)で20kg段ボール出荷が多いとのこと。最近の天候はエルニーニョ現象やサイクロンなどがあり、ここ3年間は難しい年であつたが、今年は条件良く豊作だった。

## ② WilCox (POKEKOHEHニア)

### ● 会社概要

全体で1,000haの大規模生産も兼ねた農業商社。GAP取得。玉葱340ha、馬鈴薯500ha、人件費120ha、その他プロツコリー・スイカも栽培。

販売は100%子会社の「SoFresh」が対応しており、日本には25年以上輸出実績あり。正社員200名、パート150名、選果・洗浄設備は充実しており、トンガ・インド・シンガポールからの若者を雇用しており、日本人のワーキングホリデー利用者も2名雇用している。商品ブランドはPLK「Puken Long Keeper」。



## ● 販売・物流

馬鈴薯は土付きより、洗ったものの二一ズが高まって土付きパックより10%程度高い価格で取引されている。ほか、上記①BallBr.と似たような販売形態で、日本ではバルクパック形式で30t単位20フィートコンテナ利用で15t×2でCCCなどに販売している。20年ほど前にはホクレンも視察しており、取引もあったが、今は途切れている。日本では大き目サイズの野菜が好まれるが、NZでは小さいサイズが好まれる。これは元々冷藏保管技術が劣っていたため、冷蔵庫にて取つておくよりも使い切る習慣が強いためと考えられる。人参・馬鈴薯などの生食用賞味期限は通常3週間と考へているようであるが、保存液を使用すると2カ月程度は販売可能とのこと。ただし、現在は冷蔵庫を多く活用していることから上記の限りではない。

TSM (オーストラリアタスマニア州)  
③ ハーベストマーン

- 会社概要
- 耕作面積4,000ha。タスマニアは年間降水量650mmであるが、雨は冬に振ることが多く、大方は乾燥地帯。移動式スクリンプランターで水分を頻繁に散布

● 会社概要

- 耕作面積4,000ha。タスマニアは年間降水量650mmであるが、雨は冬に振ることが多く、大方は乾燥地帯。移動式スクリンプランターで水分を頻繁に散布

している。当社はタスマニアのみならずオーストラリア大陸北西部(クイーンズランド)にも農地所有しており、52週1年間通じての栽培出荷を可能としている。従業員はトンガ、サモア、キュー・バ、台湾、その他アジアで28名雇用。人件費が高騰気味で当社では職種によって4,000円/1時間もある。

### ● 栽培方法

様々な野菜を栽培しており、総体で年間80,000t、うち玉葱20,000t栽培。直播で平均反収は70～80t/ha(日本は50～60t/ha)。ドリルを使用して播種。タッパー処理は畑上で行い、仕上げは工場で行う。農作は大型機械を使用し、オニオンピーラーは2t/1時間程度処理、その他に人参も注力している。

(年間スケジュール)

1～3月前半 早生品種 30ha

3月後半～7月 中生品種 120ha

8月～4月 晩稻品種(3品種) 100ha

① 晚稻8月播種→1月収穫

② 9月播種→2月中収穫

③ 10月播種→3月下旬収穫

販路は、タスマニア50%、オーストラリア30%、輸出20%

## 6 地元スーパー・マーケットと物価

NZ…物価はスーパーでは日本より少し高い程度なるも外食費は高額。

参考…レギュラーGS 24NZ\$/1L

TSM…まだNZよりは低いがそれでも日本とほとんど変わらない印象。パンやワインなどの日用品の価格は日本より少し高いがやはり外食費はより高い。

参考…レギュラーGS 18NZ\$/1L

## HAL+ TOPIC 01 HAL+国内視察

2024年1月16日~18日  
参加者:23名

### FOR ALL LINE株式会社

コードチェーンの需要増を先見し、千葉県芝山町に設立したロジスティクスセンターにて運送、保管、食品選別・包装など、流通に関わる作業を一貫して担い、業界の厳しい環境下でも顧客への付加価値創造を念頭に事業を推進されています。



### 赤城食品株式会社

群馬県太田市にある赤城食品株式会社では(株)十勝はる麦の会で生産されている特栽小麦を原料とした北海道パスタを製造しています。今回乾麺工場へ訪問し、麺の出来る製造工程を視察。品質管理や商品開発部署の方々と交流しました。



# HAL+国内視察

### グリンリーフ株式会社

群馬県昭和村にあるグリンリーフ株式会社は生産法人でもあり、大きな加工施設を有し、6次産業化にも取り組んでいる法人です。北海道と同様で人材確保が難しいなか、事業拡大を進める点など、参考となる訪問でした。



### 株式会社 OPEX

大田市場内にある事務所に訪問し、市場内視察およびリパック施設を視察しました。もともと物流業界から青果関連事業へ参入した経緯から物流問題の解決法を熟知しており、より需要者に近い立場で北海道産農産物の評価を伺いました。



第一印象は若者が集まる国は活気があり、町にゆとりがあるように感じた。もちろん外国人労働者の環境はどこも厳しいだろうが、時給換算してもNZとTSMは最低賃金2,800円で実際の時給は3,000~4,000円。この価格を目指して周辺諸外国のみならずアジアからも人が集まっている。必然人口も増える。正直、我が国の失われた30年は大きく、所得水準含めて日本が取り残されていた実態を目の当たりにした。農業に目を移すと日本にあるような市場ではなく、それぞれ小規模農家が淘汰されたのか、大型農業商社が農産物生産まで行う方式。各社スーパーや諸外国商社と直接取引でJAに該当する組織もNZのキウイ以外は存在せず、生産



⑤ ⑥ 地元アッパー層向けスーパー

## 7 考察

から選果・加工販売、輸出まで一気通貫に取り組んでいるスタイルが印象に残った。でもこれは逆にチャンスかもしれない。輸出のハードルは思ったほど高くないと感じたし、円安効果で国内マーケットに執着しなくても良い環境になった。もちろん中長期的な視野での販路拡大が求められるが、日本のクオリティの高さを訴求し、ニーズのある農産物をターゲットに販売を伸ばすタイミングなのかもしない。また、海外から入ってくる農産物を道内生産者の皆様に対応いただけるならば、国内生産することにも目を向けたい。今回のベビーキャロットも面白い商材かもしれない。

最後には4年ぶりに海外視察が無事に終了できることに感謝いたします。HAL+東條前会長、駒谷現会長のグローバルな視点に後押しされ、また海外現地との調整に極めて長けた株式会社アグリフォレ

同行した東條HAL+当時会長(現顧問)のコメント

「視察を終えて」農業はグローバルな職業です! 現地で見て、聞いて、肌で感じ、情報交換することや、一緒に旅した仲間たちと時間を共有することはプライスレスな財産になります。世界を観ることは大事ですよ! 皆さん一步踏み出しましょう♪

ストマシーンの山田俊作、ダニエル社長に企画・立案いただいたことで12名のメンバーが一堂に介し、昼夜語り合えたことはかけがえのない財産であり、今後の考え方における影響を与えてくれました。道中、ハプニングも色々ありましたが、今となっては笑い話、皆様、誠にありがとうございました。HAL+会員の皆様、また企画いたしましたので、国内外視察に是非ご一緒いただければと思います。



- ⑦ 馬鈴薯の収穫
- ⑧ 馬鈴薯の洗浄選別
- ⑨ オートメーション化が進んでいる
- ⑩ ニュージーランド農地にて



# 想いを価値に



「安全」で「安心」できる  
こだわりの農産物を日本全国にお届けするため  
特別栽培農産物、GLOBAL G.A.P.の取組を通し  
農業大国北海道より、安全で安心できるこだわりの農産物を  
日本全国にお届けいたします。

つくる、たべる、つなぐ  
**HAL GREEN**

[www.halgreen.co.jp](http://www.halgreen.co.jp)

HAL GREEN  
公式LINEアカウント

右記QRコードから登録お願いします!  
毎週金曜日にHAL+生産者さまに  
色々な情報を配信しています!

